

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(藤沢小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
藤沢小	上回った	下回った	上回った
埼玉県	67	64	65
全国	65.6	63.2	63.3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	藤沢小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	97.2	94.8	94.4
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	89	83	81.5
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	95.9	91.2	91.9
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	9.6	13	13.8
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	89	74.1	71.1
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	86.3	81.6	78.2
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	84.9	81.7	77.3
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	21.9	26.5	25.1
教科への関心	国語の勉強は好きだ	69.9	60.7	59.2
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	94.5	85.8	84
	算数の勉強は好きだ	69.9	62.4	62.5
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100	94	93.3
	理科の勉強は好きだ	95.9	81.1	79.7
	理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	90.4	78.7	77.2
ICTの活用	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	58.9	61.6	58.2
	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	35.6	46.6	43.9
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	15.1	23.2	22.5
	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	17.8	22.9	21.7
	平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	2.8	9.4	9.2
その他	自分には、よいところがあると思う	93.2	82	79.3
	将来の夢や目標をもっている	86.3	81.8	79.8
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100	95.2	95.1
	今住んでいる地域の行事に参加している	63	50.4	52.7

【質問紙分析】

- ・朝食、寝る時刻、起きる時刻はどれも全国、県を上回っており生活習慣が身につけていることがわかる。
- ・教科への関心も、全国、県を上回っており、中でも国語、算数、理科どの教科も将来役に立つという意識が高かった。
- ・その他のところも全ての項目で、全国、県を上回り、自己肯定感が高いことが伺える。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- ③四 「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。」(正答率89%)
- ①一 「話し言葉と書き言葉との違いを理解する。」(正答率84.9%)
- ①三 「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」(正答率84.9%)
- ③二 「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける。」(正答率42.5%)

次の条件に合わせて書きましょう。「○【文章2】のよさを書くこと。」「○【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。」「○60字以上、100字以内にまとめて書くこと。」という題意を読み取れていない。そのため書いていることが的外れになってしまっている。また、字数が足りない子も見られた。

【算数・数学】

- ①(1) 「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる」(正答率93.2%)
- ①(2) 「二つの数の最小公倍数を求めることができる。」(正答率82.2%)
- ④(2) 「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している」(正答率82.2%)
- ②(3) 「示された場面のように、数量が変わって割合は変わらないことを理解している。」(16.4%)

果汁が20%含まれている飲み物を2人で等しく分けると、飲み物の量は $1/2$ になるが、1人分の飲み物に含まれている果汁の割合は変わらないことが理解できていない。

- ①(4) 「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。」(27.4%)
示された場面において、数を大きくみたり小さくみたりするなど、目的に合った数の処理の仕方を考察することができない児童が多かった。(がい数が理解できていない。)

【理科】

- ②(1) 「メスシリンダーという器具を理解している。」(正答率98.6%)
- ①(1) 「問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。」(正答率95.9%)
- ③(1) 「日光は直進することを理解している。」(正答率17.8%)
鏡を操作して反射させた日光を対象として、光の性質を基に、反射させた日光の進み方について問うものである。日光は直進することが理解できていない。また、生きて働く知識を習得するには、主体的な問題解決を通して、知識を概念的に理解することが必要だが、できていない。
- ③(4) 「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。」

課題への取組・改善策

【国語】

- ・再度同じ問題をクラスで扱い、解かせる。そして自分は何が間違っていたかをふり返らせる。
- ・昨年度、一昨年度の等、過去の全国学力・学習状況調査の類似問題に取り組みせ、設問にある条件を使って文章を書くことに慣れさせる。
- ・毎週月曜日の「ガッツタイム」でコラム学習(新聞などの記事を読み、分かったことや自分の意見などを文章で表す。)に取り組む。
- ・週末作文に取り組む。
- ・どの教科でも授業の最後にふり返りを書かせるなど意図的に書く機会を増やす。

【算数・数学】

- ・再度同じ問題をクラスで扱い、解かせる。そして自分は何が間違っていたかをふり返らせる。
- ・毎週木曜日の「もくもくタイム」で、学力テストで出題された問題や練習シートに取り組む。
- ・記述式の問題に課題があることから、普段の授業において、自分の考えを筋道立ててノートに説明することができるようにする。自力解決では、式と答えを書いて終わりではなく、他者を説得できるように図、表、グラフ、言葉なども用いて分かりやすく表現することを意識させる。
- ・類似問題を練習問題として授業の中にも取り入れる。
- ・コバトンのびのびシートを活用し、苦手問題の克服に努める。

【理科】

- ・再度同じ問題をクラスで扱い、解かせる。そして自分は何が間違っていたかをふり返らせる。
- ・家庭学習で類似問題を取り扱う。

【その他】

- ・本校では夏休みの職員研修で、今年度の6年生が苦手としていた問題に取り組み、その問題はどの学年のどこに当たるのかを確認、指導方法を検討した。
- ・6年生の学力調査の結果ではあるが、全学年に共通する課題も多く、学校全体での取り組みを確認した。